

〈テーマ〉「代わり発表」を取り入れた取組（大河原町立大河原南小学校）

〈実践例〉「代わり発表」を用いた発表形態の工夫

- 全体解決の場で、自分の考えを発表するだけでなく、代表児童の考え（式や図など）を提示し、その考えを読み取り、代わりの児童が発表する「代わり発表」を取り入れた。
- 自分の考えを発表する（発表会形式）だけでは、聞いている側も集中力に欠けることが見られるが、代わり発表では、「どんな考えなのか」、「代わりに発表している内容は、元をかいた友達の意図する内容と合っているのか」などと考えながら聞くことが可能である。



（テレビに映された友達の考えを読み取り、「代わり発表」する児童の姿：6年生「分数のかけ算」）

- ICT（書画カメラ+テレビ）を活用し、児童のノートを映し、発表用に書く時間を短縮するとともに、全体に見やすく提示した。

（児童の反応）

- ・ 同じ考えをもっていた児童は、納得しながら聞いたり、自分の考えになかった児童は友達の考えに興味をもって考えたり聞いたりする姿が見られた。
- ・ 代わり発表は、最初は自信をもてずにとまどう児童もいたので、ペアで提示された友達の考えがどんな考えかを読み取らせたり、うまく説明できなくても次の友達につなげたりすることによって、自分にはない考え方であった場合も、友達の図や式を見ながら考えを「代わり発表」することが出来るようになっていった。
- ・ 様々な単元で取り入れることで、児童が友達の考えに興味をもつ姿が見られた。